

八日市場の戦い

市川勢の最後

匠探訪

「戊辰戦争と水戸藩市川勢の軌跡」と題した写真展が、8月中旬に公民館市民ギャラリーで計画されています。

市内中台（匠瑳地区）の脱走塚は、1868年（慶応4年・9月8日に明治と改元）10月6日（太陽暦・現在では11月19日）の松山戦争での戦死者を埋葬したところです。

慶応4年が干支（えと）でいう戊辰（ぼしん）の年にあたることから、同年1月の鳥羽伏見（京都府）の戦いから翌年5月の箱館（はこだて・北海道）戦争までの新政府軍と旧幕府側との戦いを「戊辰

戦争」といいます。

水戸藩（茨城県）では、1864年ごろから藩内で内部対立が激しくなり、市川三左衛門を首領とする一隊は慶応4年3月に水戸を脱出しました。これらは「書生党」諸生派」といわれましたが、最近では「市川勢」とよばれています。

この市川勢が旧幕府軍とともに新潟、福島、栃木と転戦し、同年10月に再び水戸へもどつたものの、最後は八日市場での戦いで敗北しました。

140年近く経た昨年从今年にかけ、この転戦の軌跡

に及び写真の中で注目されるのが、「大木左内の肖像写真」です。

大木は、西高野村（横芝光町）に住んでいて、松山戦争で生きのびた市川三左衛門を自宅にかくまい、東京（同年7月17日から江戸を改称）に逃がす手助けをしました。市川は4か月の逃亡の末に東京で捕まり、水戸に送られ処刑されました。

大木はのちに八日市場の文武館で子弟を教育し、1925年（大正14年）に亡くなりました。墓は西高野の共同墓地にあります。翌15年3月、講道館柔道の創始者として知られる嘉納治五郎の書による「文武両道大木左内先生碑」が門下生有志により福善寺参道に建てられました。

この写真展は、茨城県立図書館をはじめ、白虎隊記念館（福島県会津若松市）、河井継之助記念館（新潟県長岡市）など戊辰戦争ゆかりの地でも開かれます。

松山戦争は、水戸藩の戊辰戦争の中で、八日市場の戦いとして位置づけられ、市川勢最後の地として再認識できません。



福善寺（中央地区八日市場イ）にある大木左内の碑

が茨城新聞に掲載され、各地で取材した写真が今回展示されます。本市に関するものでは、脱走塚や市川勢が立ち寄った福善寺などです。

これら40点

問八日市場図書館 ☎ 73・3746